

Strix 8:125-131 (1989)

四国から九州に渡るサシバの渡りルート

日本野鳥の会愛媛県支部・高知県支部・大分県支部・宮崎県支部*

はじめに

サシバは夏鳥として3月下旬から4月上旬にかけて日本に渡来し、丘陵地の雑木林等で繁殖する猛禽である。またこの鳥は秋に大群をなし、南へ渡ることでもよく知られている。近年、青森県でも繁殖が確認され(弘前野鳥の会 1986)、その生息地は北海道を除く日本全土となった。

ところで、全国のサシバがどこを通過して南下し、本土最南端の佐多岬へ集結するかは、解明されてきてはいるが(吉井 1988, 吉井・叶内 1979)、細部についてはまだまだ不明な点が多い。特に四国から九州へ渡る道筋で、愛媛県の佐田岬から大分県の佐賀関へ渡るルートはどうも支流であって、本流はもっと南の高茂岬にありそうだということがわかってきた(日本野鳥の会編集部 1986, 志村・辻ほか 1988)。そこで、宮崎県支部が中心となり、「四国のどこから飛び立ち、九州のどこへ上陸するかをはっきりさせる」という目的で、大分、愛媛、高知の各県支部に呼びかけ、賛同が得られたので、今回のような合同調査を実施することができた。本報文はその結果を報告するものである。

調査を開始するにあたって、9月10・11日の両日、各県支部の代表調査員が佐伯市に集まり、調査方法や記録用紙、調査地、コールサインなどについて協議した。その時の会場設定をしてくださった大分県支部の方々、貴重な情報を提供して下さったの方々、また直接調査に参加されたの方々、ならびに協力して下さった方々に心から感謝の意を表す。本調査は、日本野鳥の会から昭和63年度支部事業補助金を受けて行なった。

調査地と調査方法

調査地は、各県支部最低2か所とした。調査地ならびに調査員は表1に示した。

各調査地点に、アマチュア無線の有資格者を必ず1名以上配置し、複数の調査員で種の確認と飛翔進路、方角および飛翔数などを調査した。種の確認やカウントは7～9倍の双眼鏡や20～25倍の望遠鏡をもちいて実施し、その結果を所定の記録用紙(図1)に記入することとした。

サシバの飛翔ルートの調査方法は、まとまった数が移動するのを利用して、無線連絡をとり合いながら飛去地と飛来地を確認することとした。この時の使用周波数は、145.62MHzを第1チャンネルとし、この周波数が使用できない場合は、145.64MHzにあげた。また、この周波数も使用できない場合は、145.00MHzのメインチャンネルにて空チャネ

1989年11月1日受理

*執筆者：中村 豊 〒880 宮崎市吉村町孫堀甲2008-5

ルを捜して使用することとし、交信前にはブレイクタイムを設け、交信内容は明瞭完結、手短に行なうこととした。

調査は、1988年10月9・10日の2日間で行なった。時間は、原則として日の出（6:10前後）から日没までとした。しかし、調査地によっては、状況に合わせて変更できるものとした。

各調査地点の天候は、2日間とも快晴で空は高く澄み渡っていた。風は四国側が2日間とも風力3～4で、風向きは北から北西の風であった。九州側では2日間とも風力4～5とかなり強い風で、風向きは北西から北東の風であった。

表2. 四国～九州地域におけるサシバ渡り調査の結果（1988年）。

Table 2. Counts of migrating Gray-faced Buzzard-Eagles in southern Japan.

	佐田岬 Sata misaki	高茂岬 Komo misaki	大洞山 Mt. Odo	鶴御崎 Turu misaki	仙崎 Sen zaki	深島 Fuka sima	陣ヶ峯 Jinga mine	横島 Yoko sima	火打崎 Hiuti zaki
6:00		467 240 (44)	5		0	0 0	0 0	0 0	0
7:00	0	504 3 (0)	8	34 0	0	0 0	0 0	0 0	0
8:00	0 (6)	84 78 (33)	8 0	2 0	2	351 0	0 0	93 0	0
9:00	1 (0)	169 187 (233)	4 0	3 1	0	263 9	47 0	132 0	0 0
10:00	2 (2)	135 50 (332)	14 13	13 0	0	38 0	0 0	0 0	94 0
11:00	2 (22)	0 420 (73)	13 1	0 5	0 0	49 14	14 0	70 1	115 2
12:00	1 (30)	0 133 (5)	6 3	6 14	0 7	45 25 (72)	34 0	19 0	59 21
13:00		9 833 (50)	3 0	21 0	0 47	0 0 (37)	5 15	8 1	150 3
14:00		55 1023 (271)	15 0	5 0	0 2	3 2 (21)	1 1	0 50	0 2
15:00		14 477 (65)	16 0	11 2	0 6	15	1 20	8 118	0 88
16:00		0 0	27 0	3 2	0 0	0	0 0	0 1	5 4
17:00		0	29			2		0	8 0
合計 Total	6 (108)	4881 (1153)	165	122	64	814 (130)	138	501	551

各時間の上段は1988年10月9日、下段は10月10日の観察数を示す。

佐田岬と高茂岬の（ ）内は1987年10月4日の観察数を示す。

深島の（ ）内は1988年10月8日の観察数を示す。

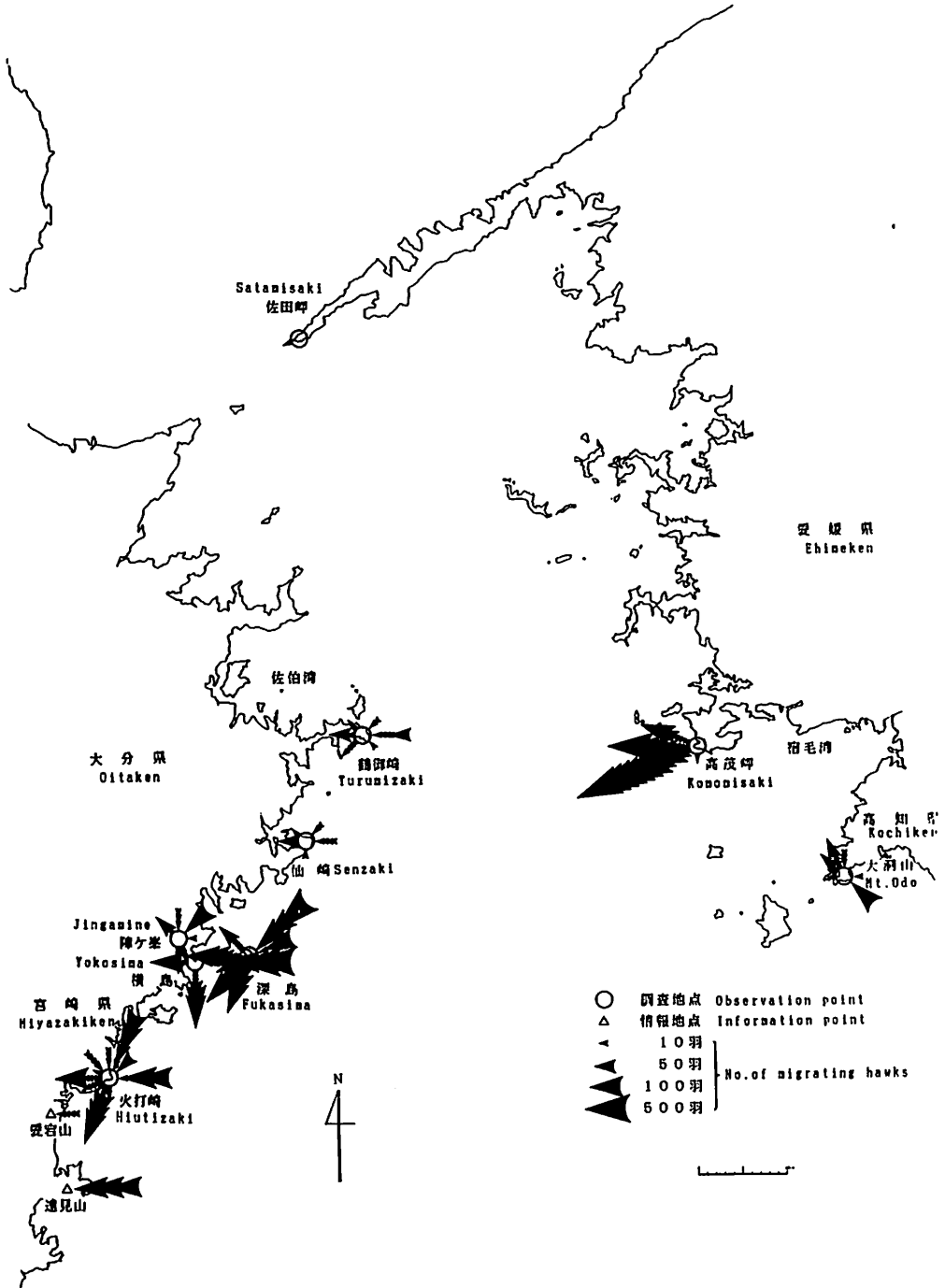


図2. 観察地点におけるサシバの飛翔方向.

Fig. 2. Flight directions of Gray-faced Buzzard-Eagles at observation points in southern Japan.

調査結果

2日間の調査結果を集計したものを表2及び図2に示した。

四国の佐田岬を飛び立ったサシバの数は、6羽と非常に少なかった。それに比べて高茂岬から飛び立った数は、1日目が1,437羽で2日目が3,444羽であった。また、大洞山第1展望台から観察されたサシバの85%が、宿毛湾を横断し高茂岬の方角へ向かって飛去した。

九州側の鶴御崎へ飛来した数は、2日間合計で122羽、深島上空での飛来数は、814羽であった。深島の真西に位置する横島展望台では501羽を記録し、もう少し南の火打崎でも551羽が確認された。

四国からの飛去方向をみると、高茂岬では西南西へ向かって飛去したサシバは2日間で3,764羽、西へ向かったものが780羽であった。また、大洞山第1展望台で観測したものは、北西方向へ56羽、北北西方向へ84羽であった。

九州の各調査地点へ飛来した方向は、鶴御崎で東からの進入が89羽あった。深島では東北方向から700羽、東北東方向から114羽であった。横島展望台の記録は、東方向から390羽であった。調査地点中最南部の火打崎では、北北東から259羽、東から207羽の飛来があった。(表3, 図2)

考 察

本報の結果から、四国から九州へ渡るサシバのメインルートは、従来からいわれているような佐田岬から佐賀関へのルートであるとは考えにくい。一方、高茂岬から飛び立った数は、2日間で4,881羽と明らかに大きな差がみられ、飛去方向も93%が西から西南西の海上へと向かっている。これらのことから、愛媛県の高茂岬は、四国から九州へ向かって

表3. 各調査地点におけるサシバの飛来・飛去方向。

Table 3. Flight directions of Gray-faced Buzzard-Eagles at each observation point.

		佐田岬 Sata misaki	高茂岬 Komo misaki	大洞山 Mt. Odo	鶴御崎 Turu misaki	仙 崎 Sen zaki	深 島 Fuka sima	陣ヶ峯 Jinga mine	横 島 Yoko sima	火打崎 Hiuti zaki
飛 来 方 向 Flying from	N			32				34		32
	NNE									259
	NE			2	16	17	700	95		50
	ENE			5			114			1
	E			1	89	39		9	390	207
	ESE				2					
	SE			96	13					
	S			3		8				
SW			1							
NW									40	
飛 去 方 向 Flying to	N			4						
	SSE							32		
	S		14					43	276	21
	SSW						256			330
	SW			1	41		256	63		10
	WSW	6	3764	1		7	72			40
	W		780	7	59	49	269		114	141
	WNW		185	6	2					7
NW			56	18	8	91				
NNW			84							

出発するサシバの四国側出口に当たっていると考えられる。

次に、入口側の九州では、深島で確認されたサシバの数が最も多く、九州の玄関となり、そこから横島展望台以南の海岸沿いに上陸するものと推定される。直線的には高茂岬と鶴御崎間が最も近距離である。しかし、高茂岬を飛び立ったサシバの79%が深島から横島展望台の方向へ飛去している。また、火打崎でも上陸数が551羽と多くなっている。このことから、出口は狭くても、入口はかなり広範囲にわたっているものと推定され、横島展望台よりも南の海岸に大多数が上陸していることが示唆される。そこで調査地点をもっと南に数多く設けて観察する必要があり、さらに継続的な調査が必要と思われる。

今回の調査で観察されたサシバの数を考えてみると、高茂岬を飛び立った4,881羽のサシバが、九州側では、深島を除く他の5調査地点の観察数を合計しても1,376羽と減少している。しかもこの数は、火打崎の方へ南下すると重複している可能性が高く、実数はもっと少ないと考えられる。いずれにしても、残りの3,500羽近くは上陸地不明となった。これらの原因として一つには、調査当日九州沿岸では、風力4～5の北西から北東の強い風が吹いており、渡り途中のサシバがもっと南に流されて上陸した可能性があげられる。別の一つは、高茂岬を飛去する時すでにかかなりの高空を飛んでおり、そのままさらに高い上空へ移動して渡ったため確認できなかった、という可能性である。前者の場合に関連して、後日の報告で調査当日延岡市街地の愛宕山で38羽、もう少し南の門川町遠見山で300羽が確認されていたし、記録にはあげていないが、火打崎のはるか沖合を南に流れていった群れも観察されていた。20倍の望遠鏡を使用しても識別はおろか数さえも把握できず、ただサシバらしいというだけであった。このことは、サシバが強い北風の影響を受けて流されたことを示唆している。一方、後者の可能性については、かなりの高空まで有効な上昇気流を期待できるのだろうか（岡ほか 1987, 辻・宮崎 1986）。このことについては不明である。

最後に、実際に飛翔しているサシバまでとの距離が、どの位あるのかはなかなかわからない。このことがはっきりとつかめれば、もっと正確なデータが得られるだろう。

要 約

1988年10月9・10日の両日、四国から九州へ渡るサシバの飛翔ルートを解明するため、アマチュア無線を使って愛媛、高知、大分、宮崎各県支部で合同調査を行なった。得られた主な成果は次のとおりである。

1. 大洞山第1展望台から観察されたサシバの85%が、宿毛湾を横断し高茂岬の方角へ向かって飛去した。
2. 四国から九州へ渡るサシバの主な出口は、佐田岬ではなく高茂岬であると推定された。
3. 高茂岬を飛び立ったサシバの79%は、深島から火打崎の方角に向かって飛去した。九州側の主な上陸地点は、横島展望台より南になるだろう。
4. 高茂岬を飛び立った4,881羽のサシバは、九州側全調査地点で1,376羽（28%）しか観察できなかった。
5. 海上を渡るサシバは、風向や風力にかかなりの影響を受けるものと推定された。
6. 四国側の出口は1地点であるとしても、九州側の入口はかなり広い範囲にわたっているものと推定された。

引用文献

- 岡奈理子・J.P. クロクソールほか, 1987. 特集 I・鳥の大移動. アニマ 182:14~44.
 志村英雄・辻淳夫ほか, 1988. 特集・タカの渡り. 野鳥 506:14~24.
 辻淳夫・宮崎学, 1986. 鷹渡る道. アニマ 167:18~23.
 日本野鳥の会編集部, 1986. 活動・タカの渡り新しい事実発見. 野鳥 484:11.
 弘前野鳥の会, 1986. 野鳥をたずねて二十一年. 弘前野鳥の会, 青森.
 吉井正・叶内拓哉, 1979. わたり鳥. 東海大学出版会, 東京.
 吉井正, 1988. コンサイス鳥名事典. 三省堂, 東京.

The migration route of Gray-faced Buzzard-Eagles *Butastur indicus*
 from Shikoku to Kyushu.

Ehimekensibu・Kochikensibu・Oitakensibu・Miyazakikensibu*
 Wild Bird Society of Japan

We studied the migration course of Gray-faced Buzzard-Eagles from Shikoku to Kyushu on October 9 and 10, 1988. Of the Gray-faced Buzzard-Eagles observed at the first observation deck of Mt. Odo, 85% flew away in the direction of Komomisaki. Apparently the main exit from Shikoku was around Komomisaki. Of the eagles observed at Komomisaki 79% flew from Fukashima in the direction of Hiuchizaki. We suggest that the entrance to Kyushu for the eagles from Shikoku was in the areas south of the observation deck at Yoshikoshima. Only 28% of the eagles observed at Komomisaki were found at all of the study points in Kyushu. Apparently the migratory route was markedly influenced by the wind over the sea.

* Address of correspondence: Yutaka Nakamura, Magohoriko 2008-5, Yoshimura-Cho, Miyazaki-City, Miyazaki 880.